

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学 商学科

名前 原 郁代

作成日 2024.02.08

【責任】

本学では本年度、会計学 1・2、会社法 1・2、英文会計を担当しています。来年度は本年度の科目に加え、ゼミナール 1・2、社会力演習、ゼミナール 3・4を担当します。他大学では、前期に財務会計論（中央大学国際経営学部）1 コマ、後期に企業法（法政大学理工学部）1 コマ担当します。

【理念】

現在は変化が激しく、大学で学修したことや社会で働く人が現在持っている知識・ノウハウがすぐに陳腐化してしまう時代です。こうした社会で生きていくためには、どの立場に立って、どのように物を考えるかという視点・思考方法即ち専門性が重要です。また、知識を身に付けるだけではなく、専門性を活かして具体的に所属している社会（企業など）を変革していく行動力も求められています。大学教育としては、専門的な知識と行動力を身に付けた人材を世に送ることが求められていると考えています。

従って、私の教育理念は、①法的思考・会計的思考を修得させ、社会で生きていくための武器としてもらう、②専門的知識を基礎にし、主体的に行動できる人を社会に送り出すことを理念としています。法的思考とは、問題が生じたときに、個人の感情ではなく、論理的に、問題の所在をどの法律のどの条文の要件に該当するか分析し、ルールに当てはめ、問題解決を図るため思考方法です。会計的思考とは、数値に置き換えて会計の側面から問題点を可視化するための思考方法です。

【方針・方法】

概要：理念①を実践するために、方針 1・2 の下に、方法 1～4 があります。理念②を実施するために、方針 3 の下に、方法 5～8 があります。

理念①→方針 1・2

方針 1：授業内容を確実に理解させます。

方針 2：法的な考え方及び会計的な考え方を掘り下げるような教え方を工夫します。

方法 1：毎回 PowerPoint などの講義資料をGoogle Classroom にアップしています。

方法 2：授業では、PowerPoint と黒板の両方を使用しています。

黒板は、PowerPoint 資料の補足説明や全体像を説明するときに使用しています。

方法 3：論点チェックシートの記入や問題を解きながら授業を聞いてもらうようにしています。

方法 4：授業ごとに課題を出して知識の定着を図っています。

理念②→方針 3

方針 3：能動的に学ぶ機会・ツールを準備します。

方法 5：授業を 10 分前に終え、質問や個別対応の時間としています。これは、質問の機会を確保するとともに、質問をしやすい雰囲気を作る役割があります。

方法 6：学生からの質問のうちクラス全体に関することについては、Google Classroom や授業で共有しています。これは、他の学生の質問によって授業内容の

理解を深めるとともに、関連する質問など質問しやすい雰囲気を作る効果があります。

方法7：レポートや提出課題の中に、講義資料を写すだけでなく、自分で考えたり調べた事項を入れています。会計学2と会社法1・2はレポート課題を出しました。第14回はレポート課題作成の時間とともに教室での質問の時間としました。書いた内容に不安がある学生やどのようにレポートを書いたら良いのかわからない学生が質問の時間を利用しました。出せていない課題も30%減点で受け取ることにしたので、成績評価が心配な学生は質問にきました。

方法8：ゲストスピーカーを招聘し、DXと会計との関係についてディスカッションを行いました（中央大学国際経営学部）。事前課題を出し、事前課題を基に学生とゲストスピーカー及び私とディスカッションをしました。

→これと同じことを来年度ゼミナール3・4で実施予定です。

【成果・評価】

- ・学生評価アンケートでは大変満足・満足の割合が75%以上です。
- ・授業を受講する学生数が増加傾向にあります（本学は着任したばかりですので、他大学での実績です）。
- ・学生評価アンケートでは、社会に役立つ実践的な授業である、分かりやすい授業であるというコメントが寄せられています（他大学）。

【目標】

1・短期目標

<準備に着手できているもの>

・会計・簿記知識を身に付けるために、他の会計分野の先生（高津先生・遠谷先生）と合同で水曜日昼休みに質問対応の場を作ることが決まっています。既に簿記資格を有している学生がサポートしてくれる仕組みを作るために準備しています。サポートする学生にとっても、他の学生に教える経験はとても役に立つので教育効果が高いと考えています。

・会計士や税理士、日商簿記資格取得のニーズが高いため、まずゼミ単位で他の先生のゼミと合同（高津ゼミと合同）で資格試験のサポートをします。2月16日（金）にプレゼミを実施し、受ける試験の種類や学習度に応じてグループを分けて学習する予定です。

・理念②に対してですが、来年度ゼミナール3・4では、ゼミ長・副ゼミ長などの役割を一人一役設定する予定です。また、夏合宿や飯山祭の参加及び内容についてはゼミ員の話し合いで決め、なるべくゼミ員で出来るようにする予定です。

・理念①にプラスする要素として、ゼミナール3・4では、専門的知識の前に、

資料の調べ方、レポートのまとめ方などのアカデミックリテラシーの確認をする予定です。これは、図書館（学術・地域連絡）のお力をお借りします。既に概略はお伝えしています。

・ゼミナール3・4では、出口戦略を意識し、それぞれ外部講師として会計士・税理士と企業経営者をお招きし、資格試験の学習方法やキャリアプランについてディスカッションをする予定です。企業経営者については、キャリアセンターに相談済です。会計士は、本学出身で講師をされている先生（林太一先生）を予定し、税理士については、高津先生に相談済です。（高津先生が鶴見地区の税理士会に働きかけてくださる予定です。）

可能であれば、会計事務所でのインターンシップを実施したいと考えています。

<まだ準備に着手できていないもの>

- ・学内で会計の研究会を実施したいと考えています。
- ・会計及び法律ともに実証研究が多くなされているので、田中先生にデータ分析の方法について教えて頂きたいと考えています。
- ・ご要望があれば、私の専門領域（恐らく会計のニーズの方が強いと思いますが）について、他の領域を専門とする先生に対してレクチャーすることも可能です。

2・中長期的な目標

本学出身の職業専門家が活躍できるように、本学出身の職業専門家からなる OB・OG 会を立ち上げたいと思います。